

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載
 【部門区分】第 6 部門第 1 区分
 【発行日】平成 29 年 6 月 29 日 (2017.6.29)

【公開番号】特開 2014-178315 (P2014-178315A)
 【公開日】平成 26 年 9 月 25 日 (2014.9.25)
 【年通号数】公開・登録公報 2014-052
 【出願番号】特願 2014-45160 (P2014-45160)
 【国際特許分類】

G 0 1 N 35/10 (2006.01)

【F I】

G 0 1 N 35/06 C

【手続補正書】

【提出日】平成 29 年 5 月 19 日 (2017.5.19)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

自動分析機器内の採血細管の蓋に突き刺す中空針 (12) のための保持装置 (1) であって、

自動式に動く台板 (42) 上に取り外し可能に固定することができる第 1 の保持要素 (2) と、前記第 1 の保持要素 (2) に接続された第 2 の保持要素 (4) とを有し、

前記第 1 の保持要素 (2) と前記第 2 の保持要素 (4) の間に固定され、かつ前記中空針 (12) が埋め込まれる少なくとも 1 個の軸受ブッシング (14) を備えた、保持装置 (1)。

【請求項 2】

前記第 1 の保持要素 (2) は、空洞 (24) を有し、

前記空洞 (24) 内で、前記中空針 (12) に固定された当接部材 (26) が、前記少なくとも 1 個の軸受ブッシング (14) 内の前記中空針 (12) の動きが制限されるように取り囲まれた、請求項 1 に記載の保持装置 (1)。

【請求項 3】

前記中空針 (12) に復帰要素 (28) が割り当てられた、請求項 1 又は 2 に記載の保持装置 (1)。

【請求項 4】

前記復帰要素 (28) が、前記当接部材 (26) と前記第 1 の保持要素 (2) との間に固定されたばね (28) である、請求項 2 を引用する請求項 3 に記載の保持装置 (1)。

【請求項 5】

前記当接部材 (26) が、軸受に取り付けられたレバー (38) に接続されたボルト (30) を有する、請求項 2、請求項 2 を引用する請求項 3、及び請求項 4 のいずれか 1 項に記載の保持装置 (1)。

【請求項 6】

前記ボルト (30) に位置測定装置の要素が接続された、請求項 5 に記載の保持装置 (1)。

【請求項 7】

前記第 1 の保持要素 (2) が、前記自動分析機器の台板 (42) に取り外し可能に接続され、前記台板 (42) が、自動式に動くことができる、請求項 1 ~ 6 のいずれか 1 項に

記載の保持装置（１）。

【請求項 ８】

前記台板（４２）への前記第１の保持要素（２）の前記接続が、接続部（５２）を有し

、

前記接続部（５２）が、第１の位置で、前記第１の保持要素（２）の解放を形状結合によって防ぎ、かつ第２の位置で、前記第１の保持要素（２）の解放を可能にする接続部（５２）を含む、請求項１～７のいずれか１項に記載の保持装置（１）。

【請求項 ９】

前記接続が、接続要素（５０）によって行われ、

前記接続要素（５０）が、前記第１の保持要素（２）を前記台板（４２）に形状結合により接続し、力が作用した状態で再び閉じることを可能にするように開く、請求項８に記載の保持装置（１）。

【請求項 １０】

前記接続要素（５０）が、自動復帰式に静止位置から動くことができるローラ（４９）を有する、請求項９に記載の保持装置（１）。

【請求項 １１】

中空針を有するピペット装置を備えた自動分析機器であって、

前記ピペット装置が請求項１～１０のいずれか１項に記載の中空針のための保持装置（１）を有することを特徴とする自動分析機器。